

## 老人の証言

何がわかっているのです看護婦さん、あなたは何がわかっているの？

私を見詰めているとき、あなたは考えているの？

さほど賢くもない年老いた気難しい女。

ぼんやりした目付きをして行動も緩慢で、

食べ物をぼろぼろこぼし、返事もしない。

「努力して、やってみて欲しいの！」と大きな声であなたが言っても、

そんな事を少しも気に掛けていない様子で、靴下や靴はいつも無くしたまま。

何も逆らわず、何もしようとするわけでもなく、長い一日を入浴と食事で埋めている。

そんなふうにあなたには思え、そんなふうにあなたは私の事を考えているの？

もしそうなら看護婦さん、目を開いて私を見詰めてごらん。

あなたに言われるままに、あなたの意志に従って食事をし、

私がじっと静かにここに座っている間に、私のことを話しましょう。

私が10歳の子どもの時、父や母と一緒に暮らし、兄弟姉妹は互いに愛し合い、

16歳の若い少女の時には浮き浮きして、もうすぐ愛する人に巡り会えることを夢見、

やがて20歳になろうとする時花嫁になり、心は躍り、永遠に守ると約束した誓いの言葉。

25歳で子どもが生まれ、子どものためにと安全で幸福な家庭を築き、

30歳の女性になり、子どもの成長も早く、永遠に続く絆で互いに結ばれ、

40歳の時、若い息子たちは成長し、皆、巣立つ日も近く、

でも、夫は私の側に留まり、私が悲しまないよう気を配る。

50歳の時、再び私の膝のうえで幼子が遊び戯れ、

もう一度、私の愛する子どもたちと私は理解し合う。

夫が死に、暗い日々が続き、未来を見詰め、恐怖に身震いする。

若い者たちは、皆、子育てに忙しく、私は昔を、愛し合った日々を思う。

私は年老いた女。自然は残酷だ。

老年が私を愚かに見せる。

私の身体から、優雅さは打ち砕かれ、活気はなくなり、

かつて熱く燃えた心も、今は石のよう。

しかし、この古い身体の中に、若い少女はまだ住み続けている。

そして、今も、再び、心がときめく。

喜びの日々を、また苦しかった日を思い出し、

私の人生を愛し続け、過ぎ去った日々を再びたどる。

永遠に続くものは何も無いという厳しい事実だけを残し、

あまりにも短く、あまりにも早く過ぎ去った年月の事を思う。

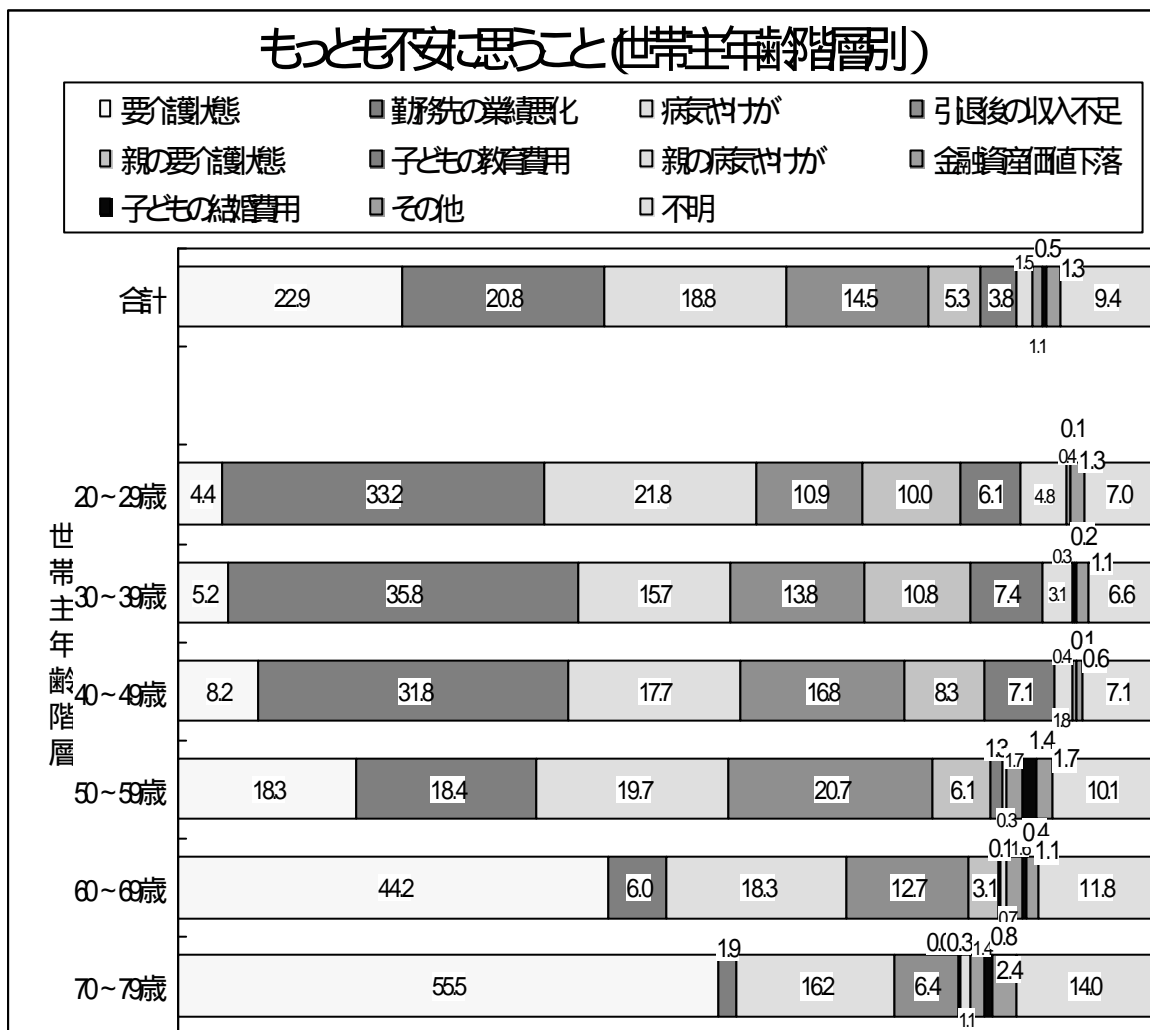
さあ看護婦さん、あなたの目を開きなさい。

目を開いて私を見詰めて。

もっと側によって、気難しい老女でなく、

「私」を知って。

グラフ 1

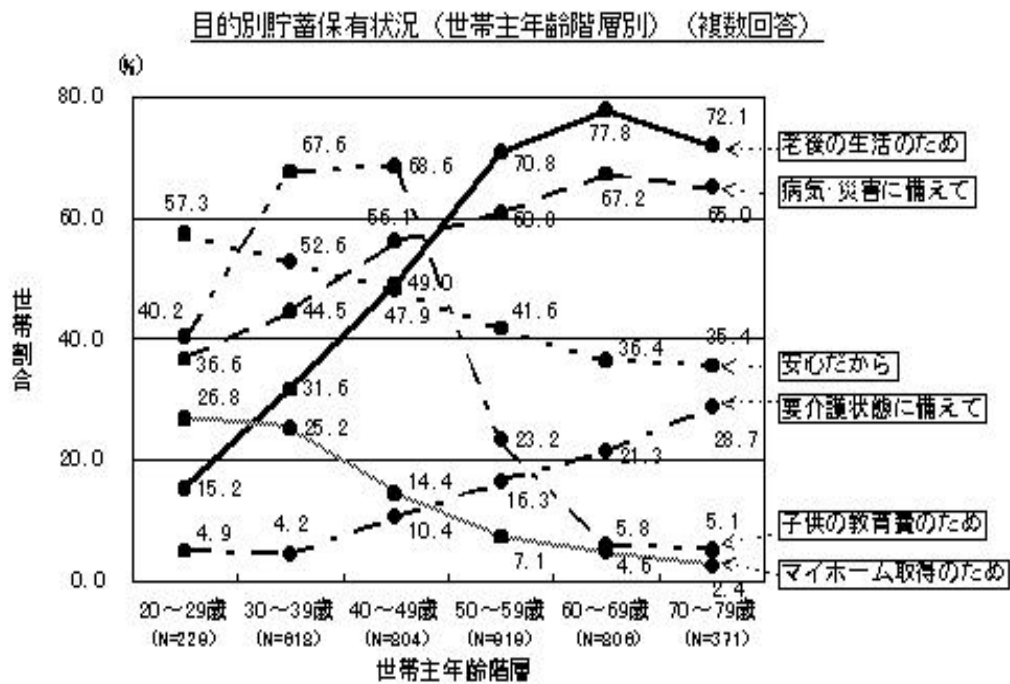


不安に思う事柄の選択肢：

- 1 お勤めの会社の業績が悪化し、収入が減ったり働きづげられなくなったりする
- 2 病気やけがをして、医療費などの思わぬ出費が必要になったり収入が減ったりする
- 3 介護を必要とする状態になり、出費が増えたり人手を必要としたりする
- 4 金融資産(株式など)や不動産などの価格が下がり、資産が目減りする
- 5 引退(退職)したあと、収入が足りなくなったり、蓄えが底をついたりして、生活が不安定になる
- 6 親が病気やけがをして、医療費などの思わぬ出費が必要になる
- 7 親が介護を必要とする状態になり、出費が増えたり人手を必要としたりする
- 8 子供の育児・教育にかかる費用が大きな負担となる
- 9 子供の結婚にかかる費用が大きな負担となる
- 10 その他

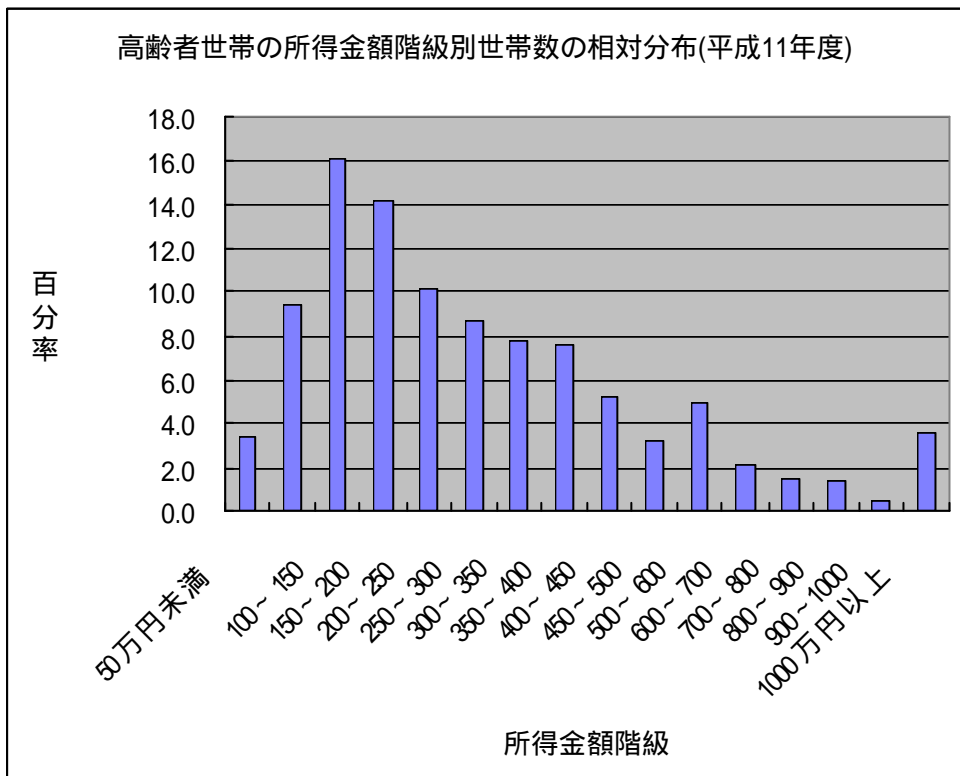
「家計における金融資産選択に関する調査」平成11年郵政省

グラフ2

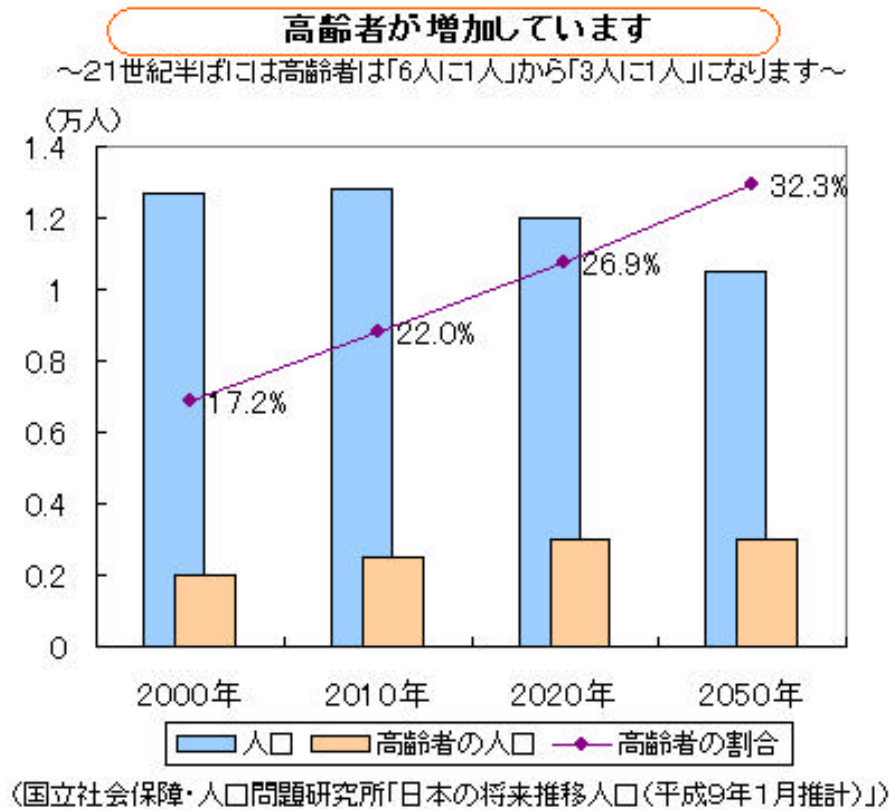


「家計における金融資産選択に関する調査」平成11年郵政省

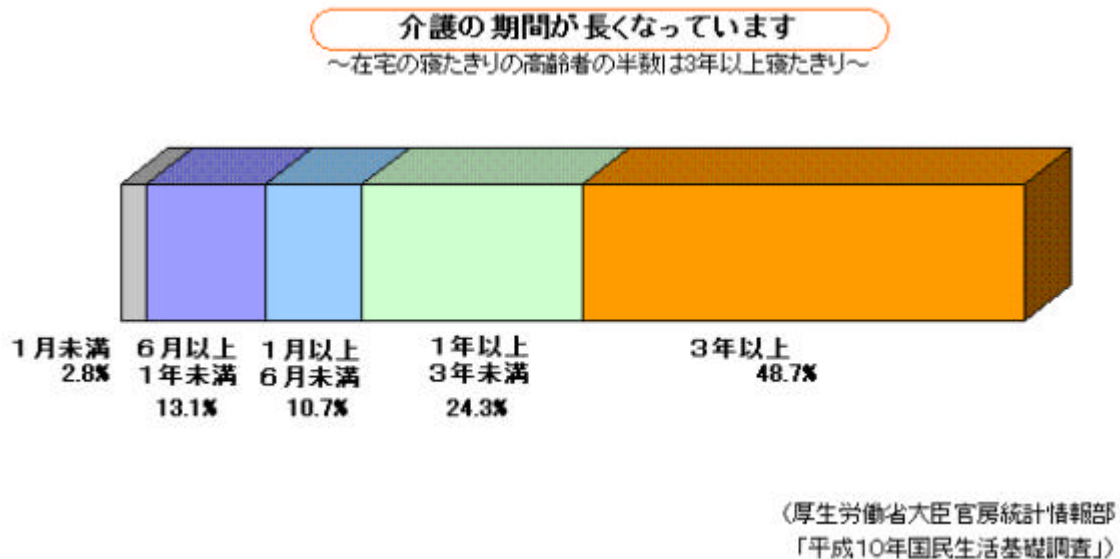
グラフ3



グラフ4



グラフ5



## 連続遺体は無理心中 親子3人 四日市北署など断定

2001.05.03 中日新聞朝刊 31頁 社会面 (全1054字)

三重県四日市市と鈴鹿市で親子三人の遺体が相次いで見つかった事件で、四日市北署と鈴鹿署は二日、鈴鹿市の墓地で同日朝、発見された長男(53)の遺書などから、長男が介護疲れなどから無理心中を図って母(92)を殺害後、三男(50)と長男が後追い自殺したと断定した。

司法解剖の結果、長男の死因は窒息死で、死亡推定時刻は同日午前四時ごろとみられる。

両署は遺書通りの死に方をしている 鈴鹿市の現場で発見されたラップの箱から長男の指紋が確認された 三男の死体の状況や、顔に巻かれていたラップに長男関与の形跡がない - などから二人とも自殺と断定した。

### ニュース前線 「母はよくなる。私が直接…」 さまよった2日間 長男覚悟の遺書

「二年間、抜け殻の状態でした」 - 。老健施設にいる九十二歳の母親を連れ出し、手にかけた長男(53)が職員に手渡した手紙には二年前に勤め先を辞め、自宅も売り払った自分を振り返るこんな言葉が書かれていた。

周囲が語る「おとなしい人」はペンを握ると多弁になった。長男の遺体のポケットには便せん三枚に書かれた遺書。「母親はこれ以上よくなることはないだろうと三男と相談し、私が直接手を出しました」「大罪をおかしたのですが、最後があまりにも自然だったのが救い」とあった。

母親は小学校の給食センターで働いた。定職を持たなかった父親のため、生活費をほとんど一人で稼いでいたという。三人兄弟は働く母を見て育った。

約十年前に母親に痴ほうの症状が出始めると、長男は夜勤がある仕事を選んだ。母を世話するためと周囲に語っていた。施設に入所させる六年前までは、兄弟が交代で母親の世話をした。近所では孝行な兄弟として知られていた。

昨年十月には、長男は居を施設近くのアパートに移し、自転車ですしげく通い、疎遠になることはなかった。

母親を殺害した後、兄弟は街をさまよった。名古屋市内の高速道路インターを三男(50)の乗用車が通過した記録も残っている。車中で「一緒に死のう」と決断すると、三男が遺体で発見された現場に。「弟は自分の足をテープで...、その時点で私は車外に出ました」と長男の遺書はつづる。

死にきれずさまよった二日間。その間に手首も切った。

「最後は弟と同じ方法で」。五十三歳の一人の男が命を絶った瞬間、頭の中には、ことしの年賀状の笑顔で並んだ親子の写真がちらついていたかもしれない。(四日市支局)

## 三重・久居の主婦殺害事件 介護の70歳の夫を逮捕 / 久居署

2000.12.14 読売新聞中部朝刊 29頁 (全244字)

三重県久居市のパート従業員(70)が自宅で殺害された事件で、同県警久居署は十三日夜、夫のパート従業員容疑者(70)を殺人の疑いで逮捕した。

容疑者は四日夜から九日朝までの間に、自宅寝室で妻の頭部を鈍器で殴って殺害した疑い。容疑者は犯行を認めている。容疑者は事件後、行方が分からなくなり、自宅寝室に「妻を天国に連れていきたい」と書かれたメモ帳が残されていた。容疑者は、リ्यूマチで手が不自由な妻の世話をしていたという。

## 介護に疲れ? 伯母を刺殺容疑 三重・自首の男逮捕 【名古屋】

2000.06.23 朝日新聞名古屋夕刊 9頁 1社 (全245字)

三重県警久居署は二十三日、同居している伯母を刺し殺したとして、同県一志町、無職の容疑者(五七)を殺人の疑いで緊急逮捕した。

調べによると、容疑者は二十日午後十時から十一時ごろの間に、自宅の寝室で、布団に寝ていた伯母(八二)の胸を包丁で刺して殺害した疑い。容疑者は「介護に疲れて、殺した」と二十二日深夜、同署に自首してきた。

容疑者は、伯母と十年ほど前から一緒に暮らしており、数年前から病気がちで痴ほうの症状があらわれた伯母を介護していたという。

## 自立支援

介護保険制度の契機となった厚生労働省 高齢者介護・自立支援システム研究会報告(1994年12月)は

・今後の高齢者介護の基本理念は、高齢者が自らの意思に基づき、自立した質の高い生活を送ることかできるように支援すること、つまり『高齢者の自立支援』である。従来の高齢者介護は、どちらかと言えば、高齢者の身体を清潔に保ち、食事や入浴等の面倒をみるといった「お世話」の面にとどまりがちであった。今後は、重度の障害を有する高齢者であっても、例えば、車椅子で外出し、好きな買い物ができ、友人に会い、地域社会の一員として様々な活動に参加するなど、自分の生活を楽しむことができるような、自立した生活の実現を積極的に支援することが、介護の基本理念として置かれるべきである。

・したがって、新介護システムは、こうした基本理念を踏まえ、1)予防とリハビリテーションの重視、2)高齢者自身による選択、3)在宅ケアの推進、4)利用者本位のサービス提供、5)社会連帯による支え合い、6)介護基盤の整備、7)重層的で効率的なシステム、を基本的な考え方とすることが求められる。  
とした。